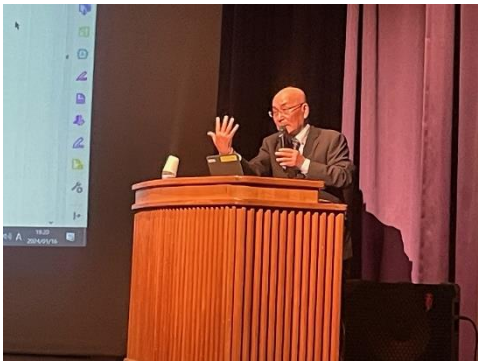


開催地名	宮崎県日向市
開催日時	令和6年1月16日（火） 19:00 ～ 20:30
開催場所	日向市中央公民館
語り部	仲條 富夫 （千葉県旭市）
参加者	自主防災会、消防団、市職員等 230 名
開催経緯	太平洋・日向灘に面している当市は、南海トラフ巨大地震による津波災害で甚大な被害が想定されていることから、津波避難施設の整備や避難訓練等に取り組んできたところである。 しかしながら、東日本大震災から10年以上が経過し、またコロナ禍で避難訓練等が行えなかったことから、住民のさらなる防災意識の向上に取り組み、自助・共助の重要性を認識してもらうことで、地域の防災力向上につなげたい。
内容	（1）13 年前の体験 早めの避難にまさる防災なし 平成 23 年 3 月 11 日 東日本大震災 14:46 激しい強弱の長い揺れ、誰もが津波が来ると思った 14:50 頃、九十九里海岸津波予報高さ 2 m、結果 7 m45 15:14 大津波警報発令 避難を検討したが、寝たきりの母がいたこともあり非難を躊躇したが堤防の高さ 4 m、52 年に経験した津波と今回の最初の津波の高さが同じだったことから何とかしのげると判断した。当時、飯岡地区社協会長だったので知り合いの 50 数名の高齢者に安全確認と避難を呼び掛けに周ったがその時、自転車で自宅に戻る際津波に巻き込まれた。自宅にきた水の高さ 2 m60cm、自家用普通車が津波に押し流された。 18:00 頃、携帯電話が通じ救急車を呼ぶが、その間何度も津波が押し寄せてきた。 20 時頃病院へ行けたが、3 月の寒い中、ほとんどの方は低体温症となったりしていた。母は濡れていなかったことが幸いし、その症状にはならなかった。 一旦避難したが津波が落ち着いた頃、貴重品等を取りに自宅へ戻ろうとした人々が津波や二次災害に巻き込まれたりした。また、夜の災害は被害が拡大するので要注意である避難所は数ヶ所あるが、家族でも災害に遭遇した時は、同じ避難所に行こうとせず、自分が今いる場所の近くの避難所に行き、状況が落ち着いたら事前に決めた場所で落ち合うなどした方がよい。それぞれが心配するあまり、悪い結果になったケースが多々ある。また難しい言葉を使うより「早めの避難を」と講演会で呼びかけているが、周りの命を守るためにも繰り返し伝えていくことが防災となる。 （2）仮設・復興住宅に関して 仮設住宅に関しては賛否両論あったが、旭市の場合平らな高台に公共施設があったので対応が早かった。本当はもう少し早い時期の開設予定だったが、浄化槽設置問題があ

	り、震災から約2ヶ月後の5月18日の開設となった。 飯岡地域 約150棟 市内中心部 約50棟 香取地域 約30～36棟 仮設住宅は基本2年が期限となっているが、今回は復興住宅が未完成のため1年延長し3年となった。日本人口4人に1人は高齢者の為、高齢者が復興住宅にお世話になるケースが多かった。餅つきや祭りなどいろいろなイベントを計画して横の繋がりを大切にしたが、復興住宅に移動した途端、安心からくる気のゆるみからか亡くなられる方もいた。 普段より横の繋がりが大切であるが、災害が起こったら仲の良い・悪い関係なく、皆で肩を寄せ合って助け合うことが大事である。まずは早めの避難、そして動くことが大事であり自助、公助、共助が必要不可欠と感じた。 (3) 最後に 被災後は、自治会や町内の人との横の繋がりの大切さを改めて実感し、自治会や行政と事前のルールや決め事、話し合いをすることも必要である。世代関係なく意見を取り入れ、必要なものだけチョイスし、若い人も率先して協力して欲しいと思う。 日向灘沖地震もいつ起こるかもわからないのだから常に心構えは必要であり、その土地のことは地域の人が一番よく知っているのだからこそ、知っていることを周りにも伝えて欲しいと思う。災害時は誰もパニックになるのでまずは落ち着いて判断・行動し避難することをためらわないことである。早めの避難にまさる防災なし!!  
開催地より	「早めの避難にまさる防災なし」という演題のとおり、何度も「早めの避難」の大切さについて語っていただいた。シンプルなメッセージではあるが、ご自身や居住地域が被災された経験からの言葉は何より説得力を感じさせられ、参加者の危機意識・防災意識の向上につながったのではないかと思います。 今後も、自主防災組織や学校、民間事業所等での避難訓練を重ね、自助・共助の重要性の認識や地域の防災力向上に取り組みたい。